



令和元年度

文化庁「日本遺産」認定！



館林市の「里沼」

SATO-NUMA

里沼(SATO-NUMA) — 「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化 —

館林の沼は人里近くにあり、「里山」と同様に人々の暮らしと深く結び付き、人が沼辺を活かすことで良好な環境が保たれ、文化が育まれてきた「里沼(SATO-NUMA)」であった。



13

「里沼」のもてなし文化



30



34



32

「もてなしの心」へと磨き上げられた館林の沼辺文化

- ❖近代化による「守りの沼」の変貌は、城沼と景観を一つにしていた「躑躅ヶ崎」も大きく変えた。それまで城主によって守られていた「躑躅ヶ崎」は、町人や村人たちの努力によって、公園「つつじが岡」として行楽地に生まれ変わり、400年前に植えられたつつじは貴重な古木群となり、名勝として甦った。多くの人が訪れるようになった沼辺には、行楽客を迎え入れるための文化が集約され、「もてなしの心」が芽生えた。
- ❖近代化によって城下町で成長した製粉・醤油醸造・織物などの会社は、内外の客を迎えるもてなしの場として「つつじが岡」を利用した。東武鉄道の開通と館林出身の文豪田山花袋が記した旅の案内書は、沼辺にある「つつじが岡」と茂林寺へと多くの人々を誘った。さらに「実りの沼」がもたらした名産品の麦落雁やうどんは、手軽な館林土産として広く知られるようになり、里沼の特性を活かした「もてなしの心」が根付いた。
- ❖館林の沼辺に佇むと、赤城山や日光連山、遠くは筑波山・富士山を眺望できる。「祈りの沼」「実りの沼」「守りの沼」、それぞれ特性を持って、多彩な文化を生み出してきた館林の「里沼(SATO-NUMA)」。その特性は明治の近代化以降、「もてなしの心」へと磨き上げられ、館林の沼辺文化として今も受け継がれている。

19 城沼周辺の「日本遺産」構成文化財②



10 ほうないけいかいずし 封内経界図誌 群馬県重文(歴史資料)	安政2年(1855)に館林城主秋元志朝によって作成された領内52か村の彩色村絵図。村ごとに土地利用が色分けされ、江戸時代の沼の形が一目でわかる。河川や田畑、集落の範囲も描かれ、人々の暮らしと沼との関わりを知ることができる。
11 沼の漁具と日向舟 未指定(有形民俗)	館林市内の沼では、広く網を仕掛けて、舟に乗って集団で行う追い込み漁のほか、ハズ漁・ヤス漁などが行われ、さまざまな漁具が生まれた。沼によって使用する舟も形が違い、多々良沼の舟は、冬に凍結した氷から舟べりを保護するために一枚板を取り付けており、「日向舟」と呼ばれている。
13 じょうぬま 城沼 未指定(名勝地)	館林市中央部にある、周囲約5kmの東西に細長い沼。西岸に館林城が築かれ、江戸時代は人を寄せつけない「守りの沼」となっていた。南岸に名勝「躑躅ヶ岡」があり、北岸には「つつじ伝説」を伝える善長寺がある。春はつつじ、夏は花ハス遊覧を楽しむことができ、沼辺を周遊する「文学の小径」や「朝陽の小径」では、四季折々の景観を見ることができる。
14 じょうもうたてばやしじょうぬましよさんすいそうず 上毛館林城沼所産水草図 館林市重文(絵画)	江戸時代末(1845年)に描かれた巻物で、当時の城沼に生息していた水草などを描いた彩色図譜。オニバス、ジュンサイなど12種類の花や藻などが見られ、今は消滅した城沼の動植物を知ることができる。
15 たてばやしじょうせき 館林城跡 (三の丸土橋門・城沼墾田碑) 館林市史跡(城跡)	館林城は城沼を要害とした城で、沼に突き出た台地の地形を巧みに利用して造られた。三の丸には江戸時代の土塁が残り、復元された土橋門と一体となって城跡の面影を伝える。また、明治維新後の旧藩主による城沼開拓に関わる記念碑がある。
22 きゅうたてばやしほんしじゅうたく 旧館林藩士住宅 館林市重文(建造物)	館林城に仕えた藩士の武家屋敷。茅葺き屋根の建物で、館林藩士の暮らしの様子を伝える。屋根の茅は、沼茅(葦)が主に利用されてきた。明治維新後、士族授産による城沼の開発に多くの館林藩士たちがかかわった。
24 ちくぶしまじんじゃ 竹生島神社 未指定(建造物)	江戸時代は城沼の入り江となっていた場所で、弁天が祀られて「浮島弁天」と呼ばれ、明治期に城下町の近江商人によって琵琶湖の竹生島神社を勧請した。境内に昭和初期に行われた城沼耕地整理記念碑があり、低湿地開拓の歴史を物語る。
26 こむろすいうんが 小室翠雲画 「邑楽公園躑躅ヶ岡之図」 未指定(絵画)	館林出身の画家小室翠雲が、明治28年(1895)に描いた彩色画。「邑楽公園躑躅ヶ岡之図」と題し、城沼とつつじが岡に集う人々が描かれ、明治時代の沼辺景観を見ることができる。



21-1



21-2



29



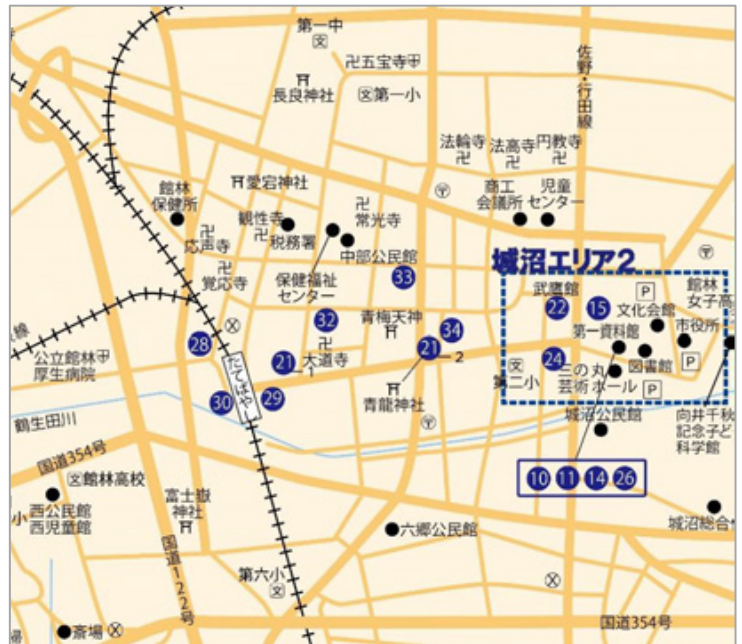
33



37



38



37 館林のうどん・38 麦落雁は市内飲食店・和菓子店にてお楽しみください。

25 たつ い せいらゆう い ど 竜の井・青龍の井戸 未指定(遺跡)	城下町に残る城沼に関わる井戸。竜の井は城下町にあった時の善導寺の境内にあり、女人の姿をした城沼に棲む龍神の妻が、寺の説話を聞いて井戸に姿を消した伝説が残る。竜の井と城沼の間にはもう一つの青龍の井戸があり、徳川綱吉が館林城主の時に、この井戸から女官姿の清瀧権現が姿を現したといわれる。井戸の水は霊水として珍重されてきた。
28 しょうだ しょうゆ きやうてん ぼ おも や 正田醤油(株)旧店舗・主屋 〔正田記念館〕 国登録有形(建造物)	城下町で江戸時代から商家を営む正田家は、「実りの沼」によって育まれた館林特産の小麦や大豆を材料にして、明治6年(1873)に醤油醸造を開始した。正田記念館は嘉永6年(1853)建築の店舗・主屋で、正田家の歴史と醤油醸造に関する資料が展示されている。
29 とう ぶ てつどう たてばやし えき 東武鉄道館林駅 未指定(建造物)	明治40年(1907)に東武鉄道が川俣から足利まで開通した際に開業。駅舎は昭和12年(1937)建築の木造2階建てモルタル瓦葺で、正面中央に時計をはめこんだ意匠が特徴。明治末期から城沼とつつじが岡を訪れる行楽客の玄関口となってきた。
30 そうぎょう き にっしん せいふん たてばやし こうじょう じむしょ 創業期日清製粉館林工場事務所 〔製粉ミュージアム本館〕 館林市重文(絵画)	明治43年(1910)に日清製粉株式会社館林工場の事務所として建てられた木造2階建ての洋風建造物。「実りの沼」によって育まれた館林特産の小麦を原料として、日本近代製粉業発展の歴史を伝える。創業110周年を記念して製粉ミュージアム本館として公開された。
32 ぶんふくしやうぞうてん ぼ 分福酒造店舗 〔毛塚記念館〕 国登録有形(建造物)	江戸時代から、城下町で酒造業を営んでいた木造2階建ての商家。建物の脇に「龍水の井戸」と呼ばれる井戸があり、かつて「龍水」という銘柄の清酒を醸造・販売していた。里沼の水源となる良質な地下水により、城下町に酒造業が発達した。
33 きやうたてばやし しんようきんこ 旧館林信用金庫 〔市役所市民センター分室〕 未指定(建造物)	大正末期に発足した館林信用金庫の近代建物。昭和9年(1934)建築で、鉄筋コンクリート造2階建て、タイル貼りの外壁や入口の装飾が特徴。大正から昭和初期にかけて町の経済発展を担い、沼辺のもてなし文化の原動力となった。
34 きやうたてばやし にぎやうけん ばんくみあい じむしょ 旧館林二業見番組合事務所 国登録有形(建造物)	昭和13年(1938)建築の、芸妓置屋と料理店業を兼ねた「二業見番組合」の事務所。木造2階建ての重厚な瓦屋根が特徴で、2階に芸妓の稽古用の舞台と広間があり、昭和前期の館林の花街の中核となった。花の季節にはつつじが岡で館林の芸妓たちが行楽客を迎え入れ、沼辺のもてなし文化に華を添えた。
37 たてばやし 館林のうどん 未指定(民俗)	江戸時代に「饅頭粉」(小麦粉)は館林藩の特産として将軍家への献上されていた。「里沼」と利根川・渡良瀬川がもたらす豊富な水資源が小麦栽培に適した肥沃な大地を生み、長い日照時間と赤城おろしと呼ばれるからっ風による乾燥した気候からうどんの産地となった。“麦都”館林のもてなし文化に欠かせない名産品である。
38 むぎらくがん 麦落雁 未指定(民俗)	大麦粉を利用して作られた麦落雁は、館林を代表する銘菓で、文政年間(1818～30)に完成して以来、館林城主献上の栄を賜ったという。城下町に根付いた茶道菓子から発展し、明治時代には「つつじが岡」の園内で館林名産として販売され、沼辺のもてなし文化を彩るものとなった。

TOPIC① 里沼の歴史的な裏付け(祈り・実り・守りの概念)

“祈りの沼”＝茂林寺沼



史実

神聖な存在から自然と人間が共存した沼

①1426 年開山の茂林寺(曹洞宗)	⇒	地元の人々の心の拠り処
②1522 年 後柏原天皇綸旨	⇒	天皇の勅願寺(祈りの拠点)
③茂林寺本堂・山門への葦利用	⇒	入会地と自然環境維持
④「分福茶釜」と参拝客	⇒	来訪者の祈りの場

構成文化財

■茂林寺沼及び低地湿原 ■茂林寺(分福茶釜) ■堀工町のどんと焼き など

“実りの沼”＝多々良沼



史実

地元の人々に生業・産業をもたらした沼

①中世期大谷休泊の用水堀開削 江戸中期「館林領五郡農家水配鑑」	⇒	二毛作(米・麦作)地帯
②1772 年 「日向村村定誓約書」	⇒	漁業組合による共同漁撈
③1855 年 封内経界図誌「日向村」	⇒	漁船と蓮根掘りの記録
④麦作が産んだ近代産業・名産品	⇒	日清製粉とうどん・麦落雁

構成文化財

■大谷休泊の墓 ■封内経界図誌 ■沼の漁具と日向舟 など

“守りの沼”＝城沼



史実

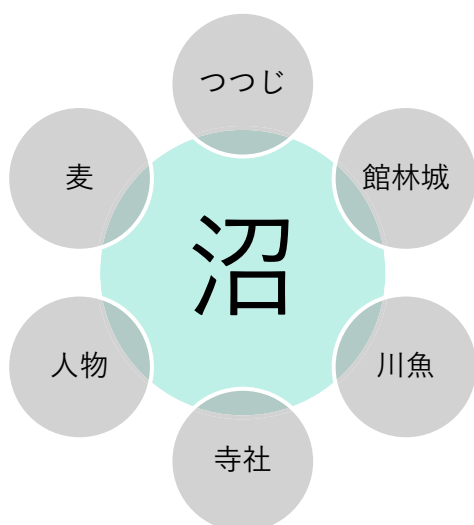
館林城の要害と城下町を形成した沼

①1471 年 「松陰私語」の館林城	⇒	沼を“天然の要害”に利用
②1661-72 年「館林領地方諸用集」	⇒	城の一部としての「御城沼」
③歴代城主・近代のつつじ古木保護	⇒	樹齢 800 年を守り続ける
④1846 年 国替引継書(禁漁)	⇒	解禁・墾田・渡船と産業

構成文化財

■館林城跡 ■尾曳稻荷神社 ■躑躅ヶ岡 ■竜の井・青龍の井戸 など

TOPIC② 館林市の地域資産はすべてに関係する「沼」



館林市の地域資産は

すべて**沼**と

密接に関係している！

沼は館林の文化のベースになっている。